

昭和 年 月 日

死 歿 者 資 料 票

昭和 年 月 日
世 話 録

20-11

判 査 者 印	年 收 入	役 職	兵 種	時 常 駐 隊	氏 名	(生)
留 守 住 所	昭 和 十 六 年	現 任	飛行 兵	長 兵 隊	氏 名	
調 査 証 憑	持 當 者 職 稱	父 氏 名	死 因	死 亡 時 間	死 亡 場 所	死 亡 原 因
取 扱 者	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
遺 留 品	遺 留 品	遺 留 品	遺 留 品	遺 留 品	遺 留 品	遺 留 品
死 亡 狀 況	昭 和 十 六 年 一 月 五 日 米 軍 戦 隊 隊 舎 の 火 災 時 死 亡 した。死 亡 時 間 未 詳。死 亡 場 所 隊 舎 内。死 亡 原 因 火 災 による 焼 死。					
確 定	本人が見た () 他人より聞いた ()					
番 號	本 籍 地	國 有 名	所 屬 部 隊	通 稱 號	氏 名	
提 料 者	陸 軍 中 隊 長	龍 谷 隊	龍 谷 隊	龍 谷 隊	龍 谷 隊	

1874

死亡現認證明書

<p>死 者 氏 名</p> <p>遺骨遺品</p>	<p>死前階級</p> <p>陸軍一等兵</p>	<p>本籍地</p>	<p>所属部隊</p> <p>昭和十九年三月七日</p>	<p>死亡場所</p> <p>カランブ沖海上</p>	<p>死亡年月日</p> <p>昭和十九年三月七日</p>	<p>死亡区介</p> <p>戦死</p>	<p>受傷箇所</p> <p>頭胸部</p>	<p>病名</p>	<p>現認事由</p> <p>昭和十九年三月七日海軍航空隊大洲丸ハブグロニ入港セリ部隊ハ右揚陸作以テ担任是レガ...</p>	<p>記載上の注意</p> <p>一現認事由は當時の状況を詳細に記入す</p> <p>一本證明書は三部作製す</p> <p>一階級は必ず死亡前を記入す</p> <p>一死亡時刻は必ず記入す</p> <p>一戦病死の時、病名を記載す</p> <p>一死亡時刻を記入す</p> <p>一遺骨正認(印)遺品正認(印)を記入す</p>
<p>証明者</p> <p>階級 氏名</p> <p>陸軍一等兵</p>		<p>本籍地</p>	<p>現住所</p> <p>同右</p>	<p>正所属部隊</p> <p>水戸勤務隊</p>	<p>一氏名は下に印を捺印す</p> <p>一職人、関係者は署名捺印す</p>					

拜啓

春暖の候となり東京ではしのぎよくなつた此の頃ですが、北海道は未だお寒い事と存じます。私は
南海派遣隊第九三〇二部隊に主計中尉として在隊致したる者にて此の度内地歸還復員致しました

令第 〇 君とは新京以來の同期生にてニューギニヤでは同僚として勤務致し一方左らぬ御好意を蒙
けました。目下伊豆伊豆にて残務整理に任じておりますが、この數日の中に終了歸宅致します

第 〇 君には昭和十九年三月十九日ウエワク出帆八尋丸にてホルランチヤへ歸進の途中敵機の攻撃
を受け戦死されました。誠に何と申上げてよいやらおくやみの旨蓮もありやん、當時ニューギニ

ヤ方面は敵の大攻勢により状況難る非化致し航空母艦ウエワクにも何時上陸するか判らぬ有様にて
私共航空隊係部隊は全部ホルランチヤに後退し、此處で最後の決戦を試みる事でありました

第 〇 部隊が主計として先鋒を承り一二〇名の下士官兵を率ゐて輸送船に乗り込みました。敵の
空襲烈しき爲何時かは夜間出航するのではしたが、此の時に限つて前夜艦砲射撃があり、出航したの

は頃でした。船がケイタベ沖を通過したと思はれる時乍ら一回空襲機が照り、も其は分らぬウエワク
が撃破されるものと思つて待機したのですが、機はノースアメリカン、コンソリーチーデット混

成機にて全機地上に墜ちました。約一時間にして引上げてまいりましたが、此の時機は輸送船隊が撃

27-13

下の戦死を痛感
お世はなかつたのです

四月下旬敵はホルラマジャ、アイタベに上陸し私共ウエワクに居つた將兵は完全な後方を襲はれ
した 幾度か突敵を試みましたが。すべて失敗に歸し。頼む食糧兵糧難乏しやむを得ず活発を
求めて山中深くはいり込み、土人部隊にひそんで時を待ちました。二十年五月遂にウエワクに上陸
した敵は前後から山中の吾々を攻撃し、八月遂に軍は玉砕を決意しました。八月末終戦を知る迄程
共はこの地に果てる積りであつたのですがこうして断つて來られたのは實に夢の様です

初十五萬を斬へたニューギニア東方部隊が歸還したのは僅かは一萬三千でした。いかに世の地の状
況が悪かつたか御察して下さい マラリア榮養不足等の爲歸還後も死ぬ人が少くありません。君
は立派に戦死されたと信じます。但軍の方でその取扱ひ法が定まらぬ爲未だ公報発表の手續がとつ
てありませんが、速からず何らかの處置がなされるでしょう

十八年八月宇島發の輸送船で我々は東方へ向ふ事に胸を躍らせてみました。新京では、私と君
とはあまり親しくありませんでしたが、ラバウルについて航空軍と一緒に配属されてからは急に親
しくなりました。一緒に勤務した事は勿論夜は慰問の少番を廻に行つたり、酒を汲み交したりしま
した

俄け早大もは幾大に外人が事などもいろいろ其油の話題であつたやいでやう

十月ウエワクへ前進を命ぜられた時と同じ飛行機でした、ウエワクでけ一機に部四新空情如脚隊に敵艦にたりました

も其け見高士官として脚隊の經理業務とる事になり、もけ主として金銀供け燃料初脚の修でした
やかすしい脚隊長、うるさい上官、するいト士官、手く々の強い兵隊各が拙主制を味らやてやろうと
脚の目標の目的は共に思けました、二人ともすれけ、働るみがお互ひを助けました。脚隊の
で働けました。仕付費に勇敢でけめで、空將の脚しい中を指所の陣絡にけり逃げました。脚隊の
食事は仍の努力で日々に向上しました、殊に仍け場地目活に軍駐をすき、脚隊作業に努力しました
ニューキニヤの土地に、大田、なす、きうり、とまと、西瓜、甘蔗、茶葉が俄の手で掘み取られ兵隊
け新鮮な食物に大喜びでした。

又椰子の油から油を取る事を研究し、百餘の製造も試みました。魚が取れると皆へけ遠方迄出かけ
ておき、十人脚隊にわつてバナナ、ハバイヤ等の果物を嘗つて事しました。甘い油の油に供けトラ
ンプの遊びに與じマンドリンヤ尺八をたしなみました。その時けまだ脚隊だつた油け仍の事も愛
するものでした、皆へけ必ず明ひ話けそうに談笑しました。私と彼とけ脚に兄弟も及げない油でした
やすむ時は二人並んで床を引き、お互く延いつきでも話し合いました

八月二十一日、二人共々御前を召し上り、
御前より御返は笑ひながら、もしこの船が沈んだら兄弟の所へ手紙を出してくれと遺言で、
お教へせられた。私がいんかげんにきいてみると、駄目だと返つて叱りました。お返を聞いてく
れと言ひますと、これからどんな状況になるか判らんからどうしても覚えろと言つてきません
ではと私は暗記しました。それが今にして校立たうとは、お慰めを知つた夜、おは彼の事を思ひ世の友
情を思つて一夜泣きました

私は若し生きてみたら一生の無二の友になつたたろう友を失ひました

歸つて来た英雄なんでいふ例もありますのでひよつくり知るかも知れないと早上様方は願われるで
すが、私もそうになつたらどんなに嬉しいか知れませんが、しかしその時の人は一人も歸つてないので
す。彼はよく[]の楽しい風景の話もしてくれましたそして是非歸つたら遊びに来い若し俺が歸ら
なくてもお前打つて兄弟に會つてくれと言ひました。その言の爲にも行きたいし[]に他は知人
もありませんので一歩参りたいのですがこういふ時代で思ふ様にすか々ず残念です
いつまでもこんな事は無いでしょういつかお前を致したいと存じます

新京時代からの戦友で[]の者が一人今一紙に伊東に来てみます。彼が四月末頃お前ひする子うで
すからこゝに御紹介申上ります。[]ですどうかよろしくお願申上ります

21-16

君の遺品として刀帶と財布を持つておりました。終戦と同時に捕虜となつたおれをとりとられてしまひ、彼を御遺族にお渡しする何物もないことを深く御詫び申上ります。

とりとめない事をいろいろ申しました。もし他にお尋ねの巾があればどうぞお手紙を下さい。お返事致します。

さぞ御落膽の事でしょうが、さういふ事ですから何とぞ堪しからず、皆々様の御陰摩を祈ります。

船を歩き廻らさうな友ありき。トランプを好める友にありしが、五十歳の凶難を受けし船に在りて、友けいかにや、散りて果てし。

三月二十四日

殿

21-17

第十八軍 炮兵班 偵察 三〇二部隊

No. /



知事張く在軍由書

先拿四月廿五日東京部三二一七二二

新隊の主力 [Redacted] 隊長王命起

北局の [Redacted] 云

者、傷 [Redacted] 其 [Redacted] 者 [Redacted] 死 [Redacted] 死 [Redacted]

重部隊一第 [Redacted] 七部隊一 [Redacted] 地 [Redacted]

事 [Redacted] 事 [Redacted] 事 [Redacted] 事 [Redacted]

他 [Redacted] 地 [Redacted] 事 [Redacted] 事 [Redacted]

12-16

No. 2

親死の事を知りたつたと思つてます

少くとも心なげに今年中にはお帰りの

事なして思つてます

高名親死の事傳の次第に確證した者は

たか利金と判りてます

満定した事なして出立をせよ申張

りありませし

ま筆をたはかりもな澄みは哀悼の

意を表しませす

有自善なるの程祈進下さすお具



標

五張復寫紙

12-17

1003